

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

たくましく自立・しっかり自律し、自信を持って社会に参加できる力を育成する。

1. 地域との連携を緊密に図り、地域から愛される「元気な学校」「きれいな学校」をめざす。
2. やさしさ、温かみを背景にした厳しい生徒指導を通して、基本的生活習慣と高い規範意識を醸成する。
3. 「確かな学力」である基礎的・基本的な学力を定着させると共に、自他敬愛、共生の「豊かな心」を育み「生きる力」を育成し、学校への帰属意識を高め、中途退学を減らす。
4. 全教職員が同じ方向に向き、生徒の目標実現や課題解決に向け様々な工夫を講じ、生徒・教職員が共に充実感や達成感を味わうことのできる学校をめざす。
5. 生徒や保護者、中学校、地域のニーズに的確に応えられる教育内容の充実を図り、教職員が最大限の力を発揮し「学校力」を高めることで「信頼できる学校」をめざす。

## 2 中期的目標

- 1 生徒たちが学び育ち合い、教職員も学び育ち合う学習活動を推進する。
  - (1) グループでの学習を中心に生徒同士が分からないことを聴き合う活動を通して、確かな学力を育成する。
    - ア 活性化プロジェクト会議を中心に、公開授業と研究協議を実施し、生徒同士が励まし合いながら学ぶ楽しさを体得できるよう授業改善に取り組む。
 

※生徒授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持てる」を（平成 27 年度 75%）、平成 30 年度には 85%をめざす。
- 2 全教育活動を通して規範意識を醸成し、学校への帰属意識を高める。
  - (1) 基本的生活習慣を確立し、遅刻や問題行動の防止に努める。
    - ア 生活指導部を中心に、各学年集会やホームルームにおいて、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
 

※生活習慣の改善と中退防止の観点から、遅刻者数の毎年 10%減をめざす。
  - (2) 問題・課題を抱える生徒に対し、全教員が生徒一人ひとりにきめ細かく対応し、不登校や中途退学を防止する。
    - ア 修学支援委員会を中心に、支援を必要と考える生徒の個別支援プランを考え、全教職員で周知、指導にあたる体制を作る。
 

※生徒向け学校教育自己診断の入学満足度を（平成 27 年度 62%）、平成 30 年度には 80%をめざす。
- 3 自尊感情を高め、生徒自らが進路目標を掲げ努力し、自己実現ができる支援・指導体制を充実させる。
  - (1) 学校生活を通し、自己発見を促すとともに、勤労観・職業観・自己肯定感を養う。
    - ア 進路指導部を中心に、各学年が、3年間を見通した進路計画をもとに系統的な指導を行っていく。
 

※進路未決定者を（平成 27 年度 18%）、平成 30 年度には 8%以下をめざす。また、学校斡旋就職者の割合を（平成 27 年度 65%）、平成 30 年度 75%以上をめざす。
- 4 部活動・学校行事など活気あふれる元気な学校にする。
  - (1) 部活動や生徒会活動への参加を呼びかけ、活動を通して豊かな人間性を育成する。
    - ア 部活動や生徒会活動等を通じて、責任感、連帯感、達成感を育む。
 

※生徒向け学校教育自己診断の学校行事満足度を（平成 27 年度 53%）毎年 5%引き上げ、平成 30 年度には 70%をめざす。

※1年生の部活動加入率を（平成 27 年度 20%）、平成 30 年度には 45%をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【学習指導等】</b></p> <p>・生徒の個の学びを深めるための「協同的な学習」に取り組んでいる。本校での継続的な取り組みに、徐々に生徒たちも小グループで考える授業に馴染んできており、「授業はわかりやすく、内容に満足できる。」に肯定的な回答は 56.3%（昨年度比+5.1 ポイント）であり、学年進行とともにポイントは高くなっている。「教え方に工夫をしている先生が多い。」に肯定的な回答も 65.3%（昨年度比+6.8 ポイント）、学年別では1年生が 63.4%、2年生が 64.6%（昨年度1年生比+8.8 ポイント）、3年生が 71.0%（昨年度2年生比+14.1 ポイント）であり、「協同的な学び」に取り組む効果が徐々に表れているものと思われる。「授業などでビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータなどを活用している。」に肯定的な回答は 60.6%（昨年度比+8.5 ポイント）であり、ポイントは上昇したが、更なる活用の推進が必要である。</p> <p><b>【生徒指導等】</b></p> <p>・「先生は生徒の意見を聞いてくれる。」の項目で、1年生が 61.2%、2年生が 56.2%（昨年度1年生比+3.8 ポイント）、3年生が 69.4%（昨年度2年生比+18.8 ポイント）、全体では 61.5%（昨年度比+4.5 ポイント）が肯定的であった。また、「担任の先生以外にも保健室や相談室で、気軽に相談できる先生がいる。」に肯定的な回答が、1年生が 52.6%、2年生が 41.1%（昨年度1年生比+8.2 ポイント）、3年生で 58.2%（昨年度2年生比+6.6 ポイント）、全体では 50.1%（昨年度比+1.1 ポイント）であり、改善しているものの、今後更に教育相談機能の充実と生徒に寄り添った指導を推し進めなければならない。</p> <p><b>【進路指導等】</b></p> <p>・各学年で職業観や勤労観を高めるよう系統立てたキャリア教育を進めており、「将来の進路や生き方について考える機会がある。」に肯定的な回答は、1年生が 69.0%（昨年度比+16.8 ポイント）、2年生が 72.8%（同+19.9 ポイント）、3年生が 72.4%（同-2.4 ポイント）、全体では 70.7%（同+12.3 ポイント）であった。また、「学校は進路についての情報を知らせてくれる。」に肯定的な回答は、1年生が 71.3%（昨年度比+22.5 ポイント）、2年生が 74.1%（同+18.6 ポイント）、3年生が 79.1%（同+0.6 ポイント）、全体では 74.2%（同+14.1 ポイント）であり、課題であった1・2年生の意識向上に改善が見られる。今後さらにキャリア教育を充実させ意識向上をめざす。</p>	<p>第1回（6/28）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に目標が多すぎて先生方が大変だと思う。達成目標を焦点化して確実に行動してほしい。課題を先生で共有し、その課題にどのようにアプローチするかを考え、生徒が気付くように、腑に落ちるように指導してほしい。</li> <li>・生徒が自分の意見を持って会話ができるように指導してほしい。</li> <li>・高校生活は人生で一番大切な、多感な時。一人ひとり大切に接してほしい。</li> <li>・時代とともに学校が変化している。今の子どもたちにどのような学びを提供すればよいのか、生徒の立場に立って考えてほしい。</li> </ul> <p>第2回（10/13）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来校時に初めて生徒から挨拶の言葉をもらった。生徒指導が届いているように感じる。小グループを導入し、生徒と向き合っている印象もあり、指導の効果があがってきているように感じる。</li> <li>・遅刻が昨年よりも減っているが、欠席が増えている。しっかり取り組んでほしい。遅刻、欠席が多い生徒が、友達からの連絡や先生との約束で学校に行くようになっていたりしている。そういった面で生徒が救われている面が大きい。</li> <li>・半年で大きな成長をしているのではないだろうか。先生は生徒と向き合い、生徒と人間関係を作って地道に努力していると感じる。</li> </ul> <p>第3回（2/1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒にゴミを拾ったり、挨拶をさせるよう意見してきたが、今では挨拶も生徒からしてもらえるようになり、落ちているごみも減った。先生の生徒への温かい対応が、学校の変化につながっているように感じる。</li> <li>・学校教育自己診断結果は改善している項目が多く、学校や分掌での取り組みの結果と考えている。一方、授業アンケート結果から、先生の取り組みは向上しているが、生徒意識はまだ興味関心、知識技能が身に着くまで達していないように感じた。今進めている取り組みを継続して生徒を大事にしてほしいと思う。</li> <li>・生徒が勝山高校に入りたいという意識をもつには、就職率の高さや、進学実績が重要であり、現在取り組んでいるゆめ学や朝学は良い。生徒が自信をつけるための検定試験による資格取得にもチャレンジしてほしい。</li> <li>・自己評価は数字にとらわれ過ぎず、効果の上がっている取組、うまくいかなかった点の分析を踏まえ議論したい。勝山高校らしい学校をめざしてほしい。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒たちが学び育ち合う学習活動を推進する。	<p>(1) グループでの学習を中心に生徒同士が分からないことを聴き合う活動を通して、確かな学力を育成する。</p> <p>ア 公開授業と研究協議を実施し、生徒同士が励まし合いながら学ぶ楽しさを体得できるよう授業改善に取り組む。</p>	<p>ア・全学年HR教室の机をコの字型に配置し、授業では、4人組を基本にした小グループでの生徒同士の学び合う授業づくりに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わからないことは、グループの仲間に「聴く」習慣を身につけさせる。</li> <li>・グループでの学び合う関係は、話し合う関係ではなく聴き合う関係であることを理解させる。</li> <li>・「共有の学び」と「ジャンプの学び」の二つの協同的学びを推進し、真正の学びを追求する。</li> <li>・校外向け公開授業（全授業を公開）、研究協議会を開催する。</li> </ul>	<p>ア・生徒授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持てる」79%をめざす (H27実績75%)</p> <p>・校外向け公開授業、研究協議会を開催。外部講師を招聘して、協同的な学びを推進する。 (H27実績なし)</p>	<p>ア・教材の工夫と少人数グループでの活動を取り入れた生徒が主体的に課題に取り組む授業に取り組んでいるが、授業アンケートにおける「授業内容に興味・関心を持てる」は77%で、昨年度より向上したが、目標には届かなかった。(△)</p> <p>ア・外部講師を招聘しての校外向け公開授業、研究協議会を6月と11月に開催し、本校教員以外に外部から30名以上の教員等の参加を得て研修会を実施し、協同的な学びの実践に欠かすことができない授業研究を深めることができた。(◎)</p>
2 学校教育活動を通して規範意識を醸成し、学校への帰属意識を高める。	<p>(1) 基本的な生活習慣を確立し、遅刻や問題行動の防止に努める。</p> <p>ア 基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。</p> <p>(2) 問題・課題を抱える生徒に対し、全教員が生徒一人ひとりにきめ細かく対応し、不登校や中途退学を防止する。</p> <p>ア 支援を必要と考える生徒の個別支援プランを考え指導にあたる体制を作る。</p>	<p>ア・生徒の実態把握に努め、遅刻・欠席の原因を探り、指導にあたっては、なぜ遅刻、欠席がいけないのかを理解させ、常習者の減少を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対話による丁寧な指導により生徒の規範意識を高め、生徒との信頼関係を深める。</li> <li>・生徒自治会や教員による朝のあいさつ運動など、生徒同士や教員とコミュニケーションがとりやすい環境をつくる。</li> </ul> <p>ア・問題・課題を抱える生徒の早期把握に努め、修学支援委員会を中心に全教員が共通認識を持ち、人権に配慮した指導や対応をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人ひとりとじっくり向き合い、生徒の状況を把握し、問題解決に向けた迅速な対応に努める。</li> <li>・担任会だけでなく、学年会を月に2回以上開催し、適切に生徒対応をする。</li> <li>・支援を必要と考える生徒には個別の指導計画を作成し、適切な指導、支援に努める。</li> </ul>	<p>ア・昨年度の遅刻者数の10%減 (H27実績述べ10,400名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒向け学校教育自己診断の生徒指導充実度70% (H27実績50%)</li> <li>・生徒向け学校教育自己診断の入学満足度68%をめざす (H27実績62%)</li> </ul> <p>ア・生徒・保護者向け学校教育自己診断の教育相談満足度70% (H27実績63%)</p>	<p>ア・早朝登校指導の実施などに取組み、昨年度に引き続きの遅刻者数前年度比減をめざしたが、年度末まで進級を諦めず遅刻しながらも登校した生徒が昨年度よりも増えたことにより、遅刻者数は昨年度比5%増となった。(△)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断の生徒指導充実度(「先生は生徒の意見を聞いてくれる」及び「学校生活についての先生の指導は納得できる」の評価の平均)は55%で、昨年度より肯定的意見は増加したが、目標には及ばなかった。「先生は協力して生活指導に当たっている」を加えた平均は58%である。(△)</p> <p>ア・生徒との対話を重視した活動と指導に取り組んだが、生徒向け学校教育自己診断の入学満足度は65%で、昨年度より向上したが目標には到達しなかった。規律・規範の徹底、学力向上と人間関係づくりに取り組む、更なる向上をめざす。(△)</p> <p>ア・相談窓口を複数設置し周知してきたが、生徒・保護者向け学校教育自己診断の教育相談満足度は64%に留まった。次年度は教員の更なる資質向上に加え、外部人材・外部機関との連携をさらに進めて、安心できる学校づくりに努める。(△)</p>
3 自己実現ができる支援・指導体制を充実させる。	<p>(1) 学校生活を通し、自己発見を促すとともに、勤労観・職業観・自己肯定観を養う。</p> <p>ア 進路指導部と各学年が、系統的な年間計画にもとづいてキャリア教育を推進する。</p>	<p>ア・各学年の進路担当者が系統的にホームルーム等において自己分析をさせるとともに自己肯定観を養う取り組みを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業観、勤労観を養う学習プログラム、体験学習等を充実させる。</li> <li>・企業経営者等の講演会を開催し、現実的な職業観を学ぶ機会を多く設ける。</li> <li>・進学希望者に向けては、補習等により学力保障を図るとともに進学資金計画、奨学金制度について保護者を含めて説明会等により正しく理解させる。</li> <li>・支援を要する生徒については、専門機関との連携を図りながら生徒の適性・能力を把握し、職場実習を実施し、進路実現を支援する。</li> </ul>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断の進路学習及び進路情報に対する満足度70%以上 (H27実績59%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業観育成プログラム等への参加希望者60名以上 (H27実績60名)</li> <li>・進路未決定者15%以下をめざす(H27進路未決定率18%)。そのために就職希望者のうち学校斡旋就職希望者の割合を68%以上 (H27実績65%)</li> </ul>	<p>ア・進路指導部と学年で1年次からのキャリア教育に取り組んだ結果、生徒向け学校自己診断の進路学習及び進路情報に対する満足度は72%であった。(◎)</p> <p>ア・強い意志をもってプログラムに参加するよう事前指導を徹底して参加生徒を絞り込んだ結果、職業観育成プログラム等への参加者は21名に留まった。(△)</p> <p>ア・卒業後に自己実現のための準備に備える者以外の進路未決定者は8%であり、目標を達成できた。(○)</p> <p>ア・進路指導を徹底した結果、非正規就労希望者を含めた就職希望者に占める学校斡旋就職希望者は70%、非正規就労希望者を除く就職希望者に占める学校斡旋就職希望者は82%であった。(◎)</p> <p>ア・学校斡旋就職希望者の内定率は93%で、昨年度比+4ポイントである。(○)</p>